



From China

海外レポート

# 上海市の教育事情

## 1 はじめに

2011年4月末に10年ぶりの中国第6次人口普查(国勢調査)の結果が発表されました。調査結果によると、人口増加率は鈍化していることから、79年に導入されて以降30年以上続けられてきた「二人っ子政策」は期待通りの成果が出ているように見えます。しかし一方では「少子高齢化」や「男女構成比の偏り」、「過保護」等、様々な社会問題も生じているようです。その中でも「小皇帝」と呼ばれる子供の問題が中国各地で報告されています。

「小皇帝」とは、一人っ子同士の両親とその祖母から過保護に育てられている子供を表す呼び名ですが、彼らは常に家庭の中心として衣食に不自由無く育てられているうえ、教育費を惜しまない家庭も多い為、進学時の競争は非常に激しくなっているようです。

今回はその「小皇帝」を取り巻く環境にスポットをあて、その中でも特に教育熱が高いと言われる上海市の教育事情についてレポートします。

## 2 上海市は少子化が進行

上海市の現在の常住人口(流動人口含む)は下表の通り2,300万人を超えています。人口増加の要因の大部分は15~64歳の就業者層の増加であり、他地域から上海へ出稼ぎに来ている流動人口の占める割合が高いことが窺えます。また、前述の二人っ子政策(79年)の導入により、64年には457.5万人だった0~14歳の人口も、82年には215.9万人、10年には198.6万人と64年の半分以下の水準まで大幅に減少しています。

一方で65歳以上の占める割合は64年の35.7万人から年々増加を続けており、10年には233万人(64年対比+197.3万人)まで大きく増加しています。このように上海市では、少子高齢化の進行も著しいことから、「小皇帝」問題が顕在化してきています。

## 3 上海市の教育事情

中国は「優れた人材の育成」を目的として、80年代後半から教育改革に取り組んでおり、10年までに9年生義務教育全国完全実施という目標をほぼ達成しつつあります。現行の中国の教育制度は、幼稚園から小学校、中学校、高校、大学、大学院までであり、日本の教育制度と何ら変わりはありません。しかしながら、小中学校の学制は「6・3制」と「5・4制」が共存しています。ほとんどの地区では「6・3制」が採用されていますが、上海市では

上海市人口構成推移

(単位:万人)

	1964年	1982年	1990年	2000年	2010年
0~14歳	42.3% 457.5	18.2% 215.9	18.2% 242.8	12.2% 204.2	8.6% 198.6
15~64歳	54.4% 588.4	74.4% 882.4	72.4% 966.0	76.3% 1,277.1	81.3% 1,870.4
65歳以上	3.3% 35.7	7.4% 87.8	9.4% 125.4	11.5% 192.5	10.1% 233.0
合計	1,081.7	1,186.0	1,334.2	1,673.8	2,301.9

(出所) 中国第2次~第6次人口普查をもとに作成

「5・4制」が採用される等、各地方ごとに運用は異なっています。

上海市教育委員会の発表したデータによると、上海市には小学校が766校、中学校・高校は755校あります。高校までの基礎教育の学制は、小学校が5年間、中学校が4年間、高校が3年間の「5・4・3」制に分けられていますが、一部学校では小中一貫教育や外国籍の生徒を受け入れているケースもあるようです。

上海市のGDPに占める教育費（公的支出及び私的支出の合計）の割合は、ここ数年2%台前半ではほぼ横這いに推移していますが、上海市予算における公的教育支出額は毎年増加しています。10年度予算のうち教育事業予算総額は約300億元（約4千億円・前年比15.3%増）計上されており、現在義務教育である公立小中学校の学費等が免除されています。

公立幼稚園の一般的な保育費は、500元（約7千円）／月程度ですが、多くの親は保育費が5倍以上必要でも教育内容が充実している私立幼稚園に入園させる事が多いようです。

公立の小中学校は居住区により学校が決まっていますが、3万元（約39万円）を入学希望校に納めれば居住学区以外の有名校に越境入学することも出来るようです。この高額な費用を納めてでも有名校に入学したいという希望者は後を絶たず、益々競争は激化していると言われています。

高校は国立と私立に分かれており、国立は更に学校のレベルが3つ（一般、区、市）に区分され、学校のレベルが上がるほど学費も9000元（20000元）（約1万2千円）〜2万6千円（約2万6千円）の範囲で高くなる仕組みになっています。

各家庭の教育費は世帯月収の約20%を占めており、教育費が家計に占める割合は上昇しています。特に、塾や家庭教師等の授業料が大きなウェイトを占めています。上海市が保護者向けに行った通塾状況調査によると、小中高校生の通塾率は小学生で約50%、中学生、高校生になると60%以上へ上昇しているほか、受講頻度についても小

中学生で週1〜2回程度、高校生は週3回程度となっています。また、塾以外にもピアノや書道、絵画教室等の習い事にも通っており、教育費合計で3千元（約4万円）／月以上かかっている家庭も数多くあります。

このように塾を中心として、習い事をしている点は日本と同様です。しかし、上海の一般的な家庭では両親が共働きで生活教育資金を稼ぎ、子供の世話や家事は同居若しくは近くに住んでいる祖父母に任せるといったパターンが非常に多く見られ、この点は日本と大きく異なっています。

また近年では、外国人教師による国際先進教育を導入する学校が増えて



幼稚園の教科書



小学校の教科書



中学校の教科書

いることもあって、海外名門大学へ留学する学生も増えています。特にアメリカ、イギリス、オーストラリア、日本等の大学への留学がここ数年連続で増加しています。「中国教育オンライン調査レポート」によると、11年では約5千人（大学進学希望者の約7%）の学生が海外留学する予定であり、国際交流を重視した教育は上海の大きな特徴の一つだと言えます。

## 4 上海日本人学校について

上海の日本人学校は、日本人が多く居住する虹橋地区にある虹橋校と、新開発区である浦東地区にある浦東校の2校です。87年4月に虹橋校が日本政府の補助金と上海日系企業の寄付金により開校され、06年4月には虹橋校の急激な生徒増加に対応する為、虹橋校の小学部の一部と中学部を移転し浦東校が開校されました。また11年

4月には浦東校に世界で初めて日本人学校の高等部が開設されました。両校とも広大な敷地内に冷暖房完備の校舎、体育館、プール、図書室、パソコン室等ハード面も大変充実しており、現在では両校合計で2,770名と世界最大の日本人学校となっています。

教育課程についても日本国内と同じカリキュラムで行われており、授業は全学年で英会話、中国語会話が週に1時間取り入れられる等、海外な



浦東校①



虹橋校



浦東校②

上海日本人学校生徒数

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高校	合計
虹橋校	269	270	254	243	240	157	0	0	0	0	1,433
浦東校	103	96	107	124	118	121	257	205	150	56	1,337
合計	372	366	361	367	358	278	257	205	150	56	2,770

(出所) 上海日本人学校HPに基づき作成 (虹橋校は2011.4.11現在・浦東校は2011.5.17現在)

## 5 最後に

先日、経済協力開発機構(OECD)が09年に65か国・地域の15歳を対象として実施した「国際学習到達度調査(PISA)」において、上海の学生が全分野で1位になったことから分かるように、世界における上海の学生の学力レベルはトップクラスに位置しています。今後、上海の学校から国際感覚に優れた優秀な人材が、ビジネスの現場においてもますます活躍する場面が増えることになりそうです。

また、生徒数の内訳を見ると低学年から高学年にかけて減少する傾向が見られます。これは年々にもよりますが、傾向としては一般的な上海駐在員の年齢(30代前半から40代)から低学年の子供が多いこと、また中学校進学時に日本に帰国する児童もいること等が考えられます。但し、今後は高等部も開校したことから中学部や高等部の人員が更に増加し、国際感覚の優れた人材が輩立っていくことも期待されています。

(上海駐在員事務所 安恒 忠紀)